

「默 啜骨咄祿默
啜大可汗
(移涅可汗即小)

右賢王墨特勤

毗伽公主

懷恩

阿史德覓覓

此の表によりて知り得る如く、公主と默棘連可汗とは從兄妹の關係を有するものなりす、而して誌に見ゆる墨特勤なるものは次に見るが如く新唐書にも默啜の子として記され、公主とは實兄弟なり、則ち誌に親兄と記する所以なりとす、親兄が實兄なりとすれば此れと區別して記せる家兄なるものは、勿論筆者の意によれば別の關係を示せるものなるべく、前表の示すが如く此れを從兄の意と見ざる可らざるなり。

○因承叡澤、特許歸親兄右賢王墨特勤私第。

墨特勤が公主の實兄に當ることは前述の如し、而して此れが唐に歸順せしことは、新唐書突厥傳に開元八年王峻等に命じて、大軍を發して默棘連を討たしむるや、「突厥默啜子左賢王墨特勤」亦た兵を率ゐて之に従ひしことを記せり、されば此の以前に唐に入りしものなるを知るに足るべく、思ふにまた闕特勤の迫害を免れんとして來朝せしものなるべし、但だ唐書に左賢王とあることは此文と異なる所なれども、此れは直ちに唐書の誤れるを知り得べし、何となれば、冊府元龜(九百八十六卷 征討五)にも此の特勤の名見え、此れには右賢王と記せるを以てなり、即ち「六年(開